

第3回 ESGファイナンス・アワード・ジャパン



環境サステナブル企業部門 特別賞

株式会社メルカリ

ポジティブ インパクトを算出、 定量的に開示



上級執行役員 経営戦略室長
河野 秀治氏

—貴社は、「資源循環（サーキュラー・エコノミー）への貢献」、及び「企業規模の観点から限られたリソースを固有の特徴的な取組に戦略的に注力」の観点から、特別賞を受賞されました。受賞理由となった取組みをご紹介いただくとともに、特別賞の受賞についてのコメントをお聞かせください。

メルカリは、「限られた資源が大切に使われ、誰もが新たな価値を生みだせる社会」を目指し、重点課題（マテリアリティ）のひとつとして、「循環型社会の実現／気候変動への対応」を掲げています。

事業を通じて発生する環境への負荷を最小化するだけでなく、不要になったものを他の誰かに引き継ぐことができるマーケットプレイスを成長させていくことで、限りある資源が大切に使われる循環型社会の実現につながっていくと考えています。このように、メルカリは、事業の成長を通じて地球環境に対してポジティブなインパクトを生み出し続ける「プラネット・ポジティブ」な企業を目指しています。

そのために、重要な環境課題に関して機会を最大化し、リスクを最小化できるよう戦略的な資源配分を行うように努め、ポジティブ・インパクトの拡大として循環型社会の実現と、ネガティブ・インパクトの削減として気候変動への対応における中長期戦略を開示しています。

今回の受賞を機に、メルカリは今後も事業や企業活動を通じて、限られた資源が大切に使われ、誰もが新たな価値を生みだせる社会の実現に貢献して参ります。

—今年の貴社の環境/サステナビリティ情報開示で注目すべきポイントをお教えてください。

2022年度版サステナビリティレポート「FY2022.6 SUSTAINABILITY REPORT」では、初めて環境に関するポジティブインパクト（メルカリの事業を通じて生まれた環境貢

献量）の算出・開示を行いました。

メルカリの中で最も取引量が多い衣類カテゴリーを対象に算出した結果、お客さまがメルカリで衣類を取引したことによって、2021年は約48万トンのCO₂の排出を回避できたことが推計でわかりました。事業成長とともに循環型社会の実現に着実に貢献することができていることが定量的に示せたと考えています。

また、温室効果ガス排出量において今年度はScope1+2は75%削減目標を達成し、2030年までにScope1+2を100%削減目標、Scope3を付加価値あたり51.6%削減目標を新たに設定しました。本目標はSBTの目標に沿って策定しており、この目標値にて、2023年6月までにSBT認定を取得する予定です。

さらに、今年度より初めてTCFD提言に基づく情報開示を行いました。

—企業規模や業種特性に応じた特定の重要な環境課題等に対し独自性のある取組みを進めている/進めようとしている企業の皆様に、情報開示等についてアドバイスがあればお願いいたします。

メルカリは創業10年目の会社であり、ESG経営を目指して試行錯誤している段階ではありますが、ESGは企業にとって中長期の成長ドライバーであり、経営のあり方そのものだと実感しています。またESGというフレームワークを活用して、結果を社外に公開していくことで、社内外での調達力（人材や資金や信用）が高まると思います。

さらに社会情勢やESGの世界的動向をキャッチアップし、そしてステークホルダーとの対話を通じて、自社に求められる情報開示に対して真摯に取り組んでいくことが重要だと考えます。